

防災研修会 行事結果報告書

25-防災研修会-05

件名	TSC防災研修会(通報訓練、心肺蘇生法(含AED)、紙上研修(避難経路等)
日時	令和7年9月9日(火) 開始:10時00分 終了:11時10分
場所	地域交流施設(たかぴあ)サブアリーナ
参加人員	総参加者 25名 (TSCスタッフ:22名、高浜市応急手当普及ボランティア:3名)
事故他	事故・ケガ人はありません。

1. 報告事項

(1) 防災研修会の実施

消防署指導のもと、実際に119番通報の方法を体験実習する。

高浜市応急手当普及ボランティアの指導のもと、心肺蘇生法(含AED操作)を実習する。

(2) 消防署への通報訓練

5分前の事前通告: 9:55に消防本部に連絡し、10:00に119番にて訓練通報することを確認

通報訓練: 窓口受付担当の磯村スタッフが119番をダイヤルし、地震によるけが人発生の想定で消防署に緊急通報をするとともに、問い合わせに応答する形で通報訓練を実施した。

(3) 心肺蘇生法実習(含AED操作)

① 救急車が到着するまで6分～8分。脳細胞は4分後からダメージを受け始め8分後には細胞が死ぬ。

たくさん的人が技術を覚え、心臓を強く押し(5cm程度)脳に血液を送ることが必要。骨が折れても内臓に刺さることはない。“自分の大切な人”“未来ある命”を守るという気持ちが大切、と話された。

② 心肺蘇生法の実習

反応(意識)確認→「救急車を呼ぶ(119番通報)」と「AEDの手配」及び「多くの人を集めること」を指差しながら依頼→胸骨圧迫(心臓マッサージ)→AED操作について研修した。

AEDを運んできた者とペアを組み、胸骨圧迫を継続しながらAEDの装着・操作を行う実習は本番さながらの緊迫感があり、よい体験になった。

③ 近隣の小学校や薬局で心肺蘇生法を行った実際の話を伺った。2事例ともに、「対応した人が心肺蘇生法を経験していたり、事前に死戦期呼吸(心肺停止後に見られる呼吸、あえぐように呼吸する)」の動画を視聴していたりしたことで大切な命を守ることでできた」と話された。また、

・心肺停止かどうか迷ったときは胸骨圧迫をすること。正常であれば、苦しみを訴える。

・AED(自動体外式除細動器)は心臓が細動しているときに実行を指示する。細動していない時は実行の指示が出ない、というアドバイスをいただいた。実践に沿った有意義な研修を受けることができた。

・特定療養費(緊急性のない軽症で搬送された場合、医療費とは別に請求される費用)は、愛知県では、請求されることはないそうです。



川角理事長挨拶



磯村スタッフによる通報訓練



野々山講師による講話



内藤、米倉講師による師範



AED到着後の対応の実習



寺島事務局長お礼の言葉

報告者	NPO法人 たかはまスポーツクラブ	野々山知久
-----	-------------------	-------